

共同研究

飛騨高山で働くことに対する大学生の意識調査 ～高山市の福祉・医療施設における看護学生の体験～

臼田 成之 奥村 太志 松原 薫 北村 美恵子 水上 和典
遠渡 絹代 長谷川 真子 神谷 真有美 緒方 京
岐阜協立大学 看護学部

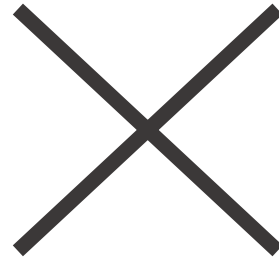
研究の背景

- わが国は国民全体の少子化が急ピッチで進んできており、近年は様々な産業分野で現役世代が減少し、深刻な人手不足に陥っている。
- 2040年度の医療・福祉分野の就業者数は96万人不足することが見込まれている（厚生労働省，2022）。
- 岐阜県においては、飛騨圏域が広大な面積を抱え、ここでの医療・福祉分野の人材確保は喫緊の課題となっている。
- 岐阜県内の病院では、医師・看護師の確保が困難なため、病棟を閉鎖するところまで出てきている。

研究の背景と目的



飛騨圏域



高山市における地域福祉・医療の取組みと課題の周知を目指して
本学の看護学生を教育研修に招いてくれた

目的

高山市が企画した看護研修から得た学生の学びや将来展望を明らかにし、
今後の連携について検討する。

研修の概要

1 研修（1～2日目 すべて座学）

内容	講師
がんの緩和ケアについて	久美愛病院緩和ケアセンター 看護部長
総合病院・老健・在宅介護について	高山赤十字病院 病院長
ケアマネ・ヘルパー、福祉用具、住宅改造	高山市福祉サービス公社 訪問事業課長・ 居宅介護支援係長
地域医療、看護・介護について	公益財団法人日本訪問看護財団 看護師
地域医療・在宅介護について	丹生川診療所 医師
入所・デイサービス・ショートステイについて	特別養護老人ホーム丹生川苑 施設長

2 懇親会 2日目夜

3 高山市内散策 3日目

※研修3日間、高山市内で実施した

研究方法

研究対象

高山市（飛騨高山大学連携センター）が企画した研修に参加希望した看護学部の学生11人（1年生5人、3年生6人※／うち飛騨高山出身1人）

※3年生の人数 抄録誤植

データ収集方法

調査1 研修前オリエンテーション終了後(アンケート調査)

「オリエンテーションに参加して印象に残ったことや考えたこと」

調査2 研修1・2日目終了後(アンケート調査・インタビュー調査)

「研修に参加して印象に残ったことや考えたこと。

受講してどのような考えや意識を抱いたか、その理由について」

調査3 研修1週間後(アンケート調査)

「研修に参加した現在の気持ちや考え」

研究方法

データ分析方法

得られた情報は、質的・帰納的に整理して全体像を示し、今後の課題を検討した。

倫理的配慮

- 本調査研究は学生の自由意思で参加し、前提として学生は体験を情報として提供することを同意のうえ研修に参加してもらった。
- 本研究は岐阜協立大学研究倫理委員会で承認を得て実施した。
(承認番号 EA-2023-002)

結果

研修参加者

研修前オリエンテーション

学生11人全員参加

研修

学生8人参加（1年生2人、3年生6人）

※学生個人の事情により1年生3人が研修の参加を辞退した。

各期のカテゴリー一覧

研修前 オリエンテーション	研修1・2日目	研修1週間後
【高山市の施策】	【研修の意義】	【研修の意義】
【高山市の現状】	【高山市の保健・医療・福祉の取り組み】	
【高山研修への関心】	【高山市の保健・医療・福祉の課題】	【高山市の保健・医療・福祉の課題】
	【地域包括ケアシステム】	【地域包括ケアシステム】
	【学生のキャリア形成】	【学生のキャリア形成】
		【研修への要望】

研修前オリエンテーション

カテゴリー	サブカテゴリー
【高山市の施策】	[取り組みの現状]
	[若者世代の育成]
	[奨学金制度への関心]
	[就業条件への関心]
【高山市の現状】	[高齢化が進む高山の地域医療]
	[高山文化への関心]
【高山研修への関心】	[研修で学ぶ姿勢の醸成]
	[体験型研修の要望]

【高山市の施策】

サブカテゴリー	コード
[就業条件への関心]	「他の地域から高山市に移住して働くとする不安も大きいので、そのサポートが必要になる」
	「高山市は魅力的だが、就職して看護師として住み続けるとなると、今の生活圏を離れるには決断がいる。その決断のためには、働きやすい環境や給料などが良いことが必要」
	「地域医療に関心を持ち高山市への就職も考えていきたい」
	「病院や施設についての情報が不足している」

研修1・2日目 & 研修1週間後

【研修の意義】

研修時期	サブカテゴリー
研修1・2日目	[研修による理解の促進]
	[地域医療に魅力をもつ]
	[健康管理に関する意識の高まり]
	[研修による理解の促進]
	[在宅での看取りに心動く]
	[在宅ケア・地域医療に魅力をもつ]
研修1週間後	[学習と研修の結び付け]
	[高齢化が進む高山の先駆的な地域医療]
	[高山の地域医療の魅力]
	[医療・介護への姿勢の感銘]
	[地域医療の視点の拡がり]

【研修の意義】(抜粋)

研修時期	サブカテゴリー	コード
研修 1・2日目	[地域医療に魅力をもつ]	「都会がいいと思っていた自分にとっては、地域医療に驚きや魅力を感じた研修だった」
	[健康管理に関する意識の高まり]	「自助の必要性を学び、自分自身も健康管理を高めたい」
	[在宅での看取りに心動く]	「看取りの映像に泣きそうになり感動した」
	[在宅ケア・地域医療に魅力をもつ]	「在宅ケア、地域医療に対してとても熱心に取り組まれていて素晴らしい」
研修 1週間後	[高齢化が進む高山の先駆的な地域医療]	「現状の課題を先を見据えて乗り越え最先端を走る高山市が素敵と思った」
	[医療・介護への姿勢の感銘]	「最後まで経口摂取をしたい願いを叶える取り組みの実践はすばらしい」
	[地域医療の視点の拡がり]	「地域全体で支え合っている姿に感銘を受け、さまざまな看護があることに視野が広がった」

【高山市の保健・医療・福祉の取り組み】

調査時期	サブカテゴリー	コード
研修 1・2日目	[高齢者の状態に応じた 援助の工夫]	「高い高齢化率である飛騨地区だからこそ高齢者に対する看護やケアが発展している」 「地域で高齢者がその人らしい生活をするために、最期まで口から食べる取り組みは重要だ」 「認知症の方への身体拘束の少なさから、患者の尊厳を守る意識の高さを感じた」
	[地域の実情に応じた 社会資源の発展]	「高山は課題のある地域だからこそ、様々な工夫から対策がうまれることを学んだ」 「早期退院のために、自宅を中心とした生活環境の整備を進めている」
	[高山の地域医療の促進]	「高山市は高度で質の高い医療の推進に向けて各医療機関と地域が連携し、ともに高山市の医療を築いていた」

【高山市の保健・医療・福祉の課題】

調査時期	サブカテゴリー	コード
研修 1・2日目	[地域の実情と課題]	「地域によって訪問ができる限界があり地域差を知った」
	[人手不足の現状と課題]	「人手不足だけではなく事業所自体が少ないため高山地区全体の取り組みが必要である」
研修 1週間後	[高山への医療の遅れの先入観]	「高山市は少子高齢化や過疎化で周囲と比べて医療技術が遅れているマイナスのイメージがあった」
	[少子高齢化が進む高山の地域医療の魅力と課題]	「少子高齢化が進む高山は都市部より高い医療技術を持ち、どこよりも早く対策を取っていたことを知りイメージが覆された」 「高齢者が増えて医療従事者不足で必要な支援を受けられない人に対して、自分がその人たちのところへ出向いて医療を提供することでその人のQOLが上がると思った」 ※QOL=Quality of life（生活の質）

【地域包括ケアシステム】

調査時期	サブカテゴリー	コード
研修 1・2日目	[ICTの利活用]	「ICTの活用（ウェアラブルデバイス）の必要性を学んだ」
	[多機関・多職種との連携・協働による地域包括ケアシステム]	「効率のよい地域医療の展開のために、医療職種間や療養者、家族で連携を図る必要性を学んだ」 「切れ目のない支援をできることが強みであるという話に印象が残った」
	[対象の望みや思いを理解する]	「本人の希望や思いを聞くこと、本音を引き出していくことはとても大切なことである」
研修 1週間後	[高山の魅力を引き出す地域包括ケアシステム]	「高山市は他の地域より地域包括ケアシステムの確立が進んでおり、地域と医療が蜜な関係となり多くの人に医療を提供していることにとても魅力を感じた」
	[多機関多職種連携と相互理解で高め合う地域包括ケアシステム]	「高山市は高度な医療に向けた開発が進んでおり、それに向けて医療職と地域が他職種と連携し合いながら取り組んでいることが素敵と思った」

【学生のキャリア形成】

調査時期	サブカテゴリー	コード
研修 1・2日目	[将来への目標や 展望の明確化]	「地域の特性を活かした質の高いケアのために、日々の研鑽が大切だ」 「医療の現場は日々変化するため柔軟な視点をもつことが大切だ」
	[キャリア形成に 影響をうける]	「人手不足で在宅支援が受けられない現状を知り、人手が足りないところに就職したい」 「「看護師が諦めてはならない」という言葉が印象に残った」
研修 1週間後	[高山への就業の 関心の高まり]	「地元で働き続けることを考えていたが地元を離れて就職するのも良いと思った」 「キャリアを積んでいつか高山市の病院に携わりたい」
	[将来への目標や 展望の明確化]	「研修に参加して自分が住む地域以外にも目を向けて、保健師としての将来像を深く考えたい」

【研修への要望】

調査時期	サブカテゴリー	コード
研修 1週間後	[施設見学の要望]	「研修に実際の現場を見ることができたらよかった」 「病院や施設に実際にいけなくて残念だった」 「自分の目で見られれば楽しく、記憶に残るだろう」
	[研修の魅力を高めるための要望]	「役職以外に若い方の話も聞きたかった」 「看護学生だけでなくリハビリ職や医学生など医療職を目指す学生が集い研修ができると素敵と思う」

考察

へき地で働く看護師が直面する看護上の問題 (中川ら, 2016)

- 地域特性に沿った看護実践への困難
- 高い質の医療確保が困難
- マンパワー不足
- 他職種との連携における困難
- 学習活動の不足 など



学生が研修後に印象に残っていること

- 地域特性に合わせた福祉や医療を提供していること
- 多機関多職種連携が行われていること
- 高齢化が進む地域で在宅医療が進歩していること



将来、看護師や保健師として高山市へ
UターンおよびIターンのきっかけ作りができた

今後の課題

新型コロナウイルス感染症の感染予防で全て座学で実施したが、多くの学生より施設見学や現地の人との関わりなど体験を重視した内容の要望が多かった。



施設見学等、学生の要望に応えるプログラムを検討したい

謝辞

研修を実施するにあたり多大なご協力を賜りました
飛騨高山大学連携センターの担当者様をはじめ、
講義を快く引き受けて頂きました高山市内の各施設担当の
皆様に心より感謝申し上げます。